第七講・わすれ物・手紙（物語文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

恵（めぐみ）の家は、団地の東の住宅地（じゅうたくち）にあります。純子（じゅんこ）の家は、団地の西外れにならぶ棟（とう）です。すぐ先の十字路が、この団地のほぼ中心ですが、十字路を向こうへわたって、まっすぐ五、六分ほど行くと、純子の家に着くのです。

「早く行かなくちゃ。リボン―フラワーの作り方、最初から教わりたいものね。」

独（ひと）り言（ごと）を言いながらかけ出し、くぼみにたまった雨水をとびこえた恵の足は、一しゅん、①すくみました。

【右手から十字路へと、勢（いきお）いよく走ってきた白い自動車。そして、目の先の横断（おうだん）歩道へちょこちょこと出ていく、ニオほどの男の子。

恵が男の子をかかえこんでとびのくのと同時に、十字路の中ほどで、自動車が、はげしいブレーキの音を立てました。】

「あぶない！　小さい子とは、ちゃんと手をつないでいてくれよっ、お姉ちゃんのくせに。」

運転手が、顔をつき出してどなりました。

（この子のお姉ちゃんじゃないわよ、わたし。）

言い返したい気もしましたが、どなられたはら立ちよりも、②もっと熱いものがこみ上げて、くちびるがふるえていました。

「あぶなかったのよ、ぼく。ほらね、あの信号が赤いときは、ぜったいに、わたっていっちゃだめなのよ。」

ひと息に言ってから、恵は、少し気持ちを静めて、男の子に話しかけました。

〈古世古（こせこ）和子（かずこ）「わすれ物」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) この文章は、だれが、どこへ行こうとしていたときの話ですか。

だれが ［　　　　］

どこへ ［　　　　］

(2) ――線①「すくみました」とありますが、どういうことですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　どうしようかとまようこと。
イ　こわさで、動けないこと。
ウ　こわさで、ふるえること。
エ　こわさから、後ろへさがること。

［　］

---

(3) 【　】の部分では何が起きたのですか。［　］にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

男の子が勢いよく走ってきた ［　　　　　］ にひかれそうになったので、恵が ［　　　　　　　　　　］ ことで男の子を助けた。

(4) ――線②「もっと熱いもの」とはどんなものですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　危険(きけん)な出来事から受けたしょうげき。
イ　男の子に対してのいかり。
ウ　男の子をほうっておく親に対してのいかり。
エ　どなった運転手に対してのうらみ。

［　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「今日は八月十五日だ。終戦記念日だ。」

おじいちゃんは、手に持った手紙に目をやったまま言った。

「終戦記念日ってのは、戦争が終わった日のことなんだ。おじいちゃんは、日本が第二次世界大戦を終えた日、九州(きゅうしゅう)の病院にいたんだ。兵隊として中国(ちゅうごく)の南部にいたんだけど、大砲(たいほう)のたまのかけらがかたに当たって大けがをして、中国から、小倉(こくら)の陸軍病院に送り帰されたんだ。それから三か月後に、戦争が終わった。」

大けがをして、中国から日本へ送り帰されることが決まった日、同じ戦場にいた友達が、①ないしょで、手紙をおじいちゃんに預(あず)け、

「もし、ぼくが生きて帰れなかったら、この手紙をぼくの両親にわたしてくれよ。」

と言ったそうだった。

戦場から、家族や友達に出す手紙は、すべて、どんなことが書いてあるのかを調べられるのだと、おじいちゃんはタケオに説明してくれた。

「戦争に反対するようなこととか、いくじのないことを書いてある手紙は、取り上げられてしまうから、兵隊たちは、手紙には、本当のことは書けないんだ。」

その友達は、自分が生きて帰れないだろうと予感して、ありのままのことを書いた手紙、おじいちゃんにそっと預けたのだった。

もし、②いろんな事情(じじょう)できみの両親にわたせなかったら、どうしたらいいのかと、おじいちゃんが、その友達に聞くと、

「そのときは、きみが読んでからすててくれ。」

友達は、そう言ったそうだった。

「いろんな事情って、どんなこと？」

と、タケオは聞いた。

例えば、自分のけがが治らなくて、このまま死んでしまったり、友達の両親と会えないまま、何年もたってしまったりしたときだと、おじいちゃんは言った。

〈宮本(みやもと)　輝(てる)「手紙」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) おじいちゃんがタケオに戦争の話をしたのはいってですか。

(2) ――線①「ないしょで」手紙をわたしたのはなぜですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　戦場から手紙を出すことは許(ゆる)されなかったから。

イ　戦場から手紙を出すには許可(きょか)が必要だったから。

ウ　戦場から個人的(こじんてき)な手紙は出せなかったから。

エ　戦場からの手紙はすべて調べられたから。

(3) 友達は手紙にどのようなことを書いていましたか。文中から八字でぬき出しなさい。

(4) 友達はどのような気持ちでその手紙を書いたのですか。文中の言葉を使って答えなさい。

(5) ――線②「いろんな事情」の内容(ないよう)がよく表れている一文を文中からさがし、初めの五字を答えなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講・確認テスト

次の中から主語を選びなさい。

1　ア僕の　イかっている　ウネコは　エかわいい。

2　ア君こそ　この　イクラスの　ウ学級委員長に　エふさわしい。

3　アその　イ本は　ウとても　エおもしろいよ。

4　ア昨日は　イだいじょうぶだった、　ウきみの　エお姉さんは。

5　ア白い　イ花が　ウもうすぐ　エしおれてしまいそうだ。

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　わすれ物・手紙（物語文）

一題目

(1) だれが…恵（が）
どこへ…純子の家（へ）
(2) イ
(3) 白い自動車・かかえこんでとびのく
(4) ア

二題目

(1) 八月十五日（終戦記念日・戦争が終わった日）
(2) エ
(3) ありのままのこと
(4) (例)自分は生きて帰れないだろうと思う気持ち。
(5) 例えば、自

〈確認テストの解答〉
１ ウ　２ ア　３ イ　４ エ　５ イ